A woman with dark hair, wearing a brown shirt and a silver hoop earring, is looking intently at a presentation board. The board is covered with various colorful paper strips and documents. In the background, other people are visible, some holding papers, suggesting a collaborative work environment.

# バリューデザインアカデミー 第3期生 募集要項

VE + **α** の  
プロフェッショナルをつくる



バリューデザインアカデミーのビジョン

## VE+ $\alpha$ のプロフェッショナルをつくる

未来が現在の延長線上にない時代となり、

これまでメソドロジー（方法論）として活用されてきたVEは、

思考プロセスとしての役割がもとめられています。

思考プロセスとしてのVEは、

ハードウェア、ソフトウェア、サービス、ピープルビジネスなど、

あらゆる分野に入り込み、その価値を向上するポテンシャルを秘めています。

VEがその機能を発揮するには、VE+  $\alpha$  の知識と能力をもった人材が必要です。

組織に、社会に、世界にインパクトを創出し、よりよい明日を作り出す人材を生み出す。

それがバリューデザインアカデミーの使命です。



1

**CVS資格制度 改定について**

2

**VDA カリキュラムの全体像**

3

**実施要綱**

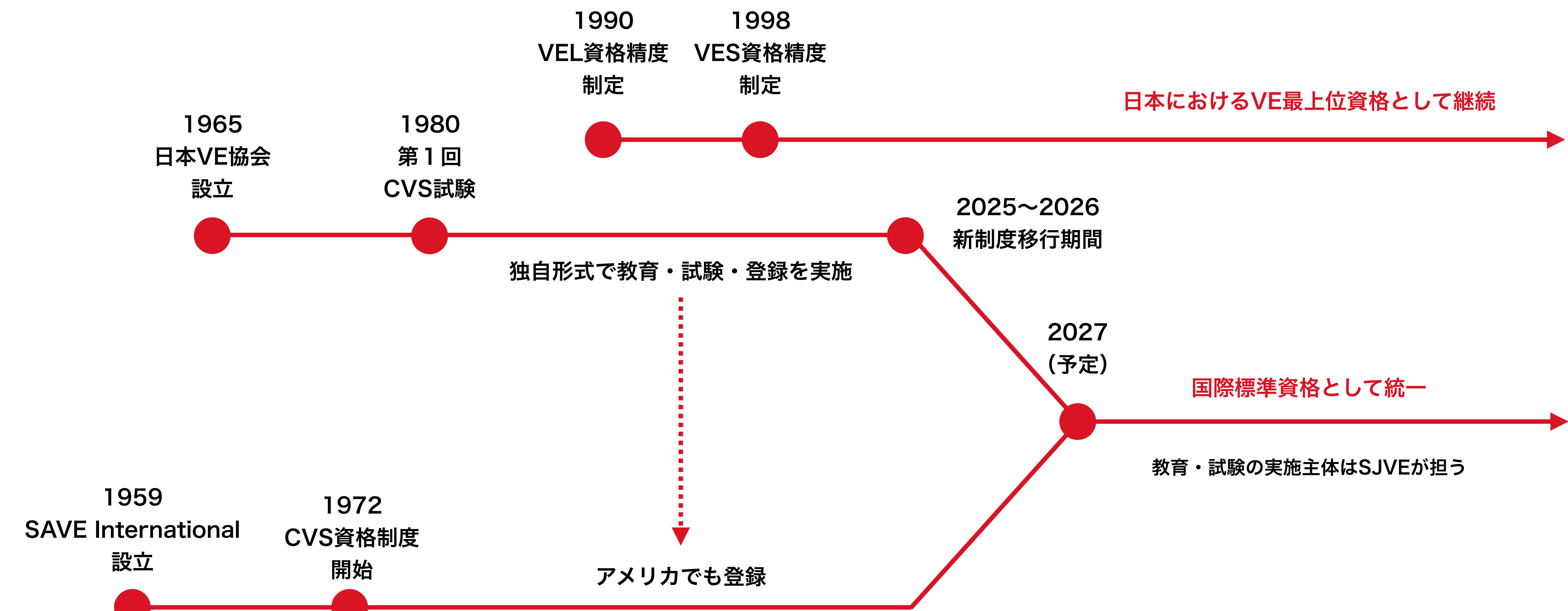
# CVS資格制度 改定について

# 01



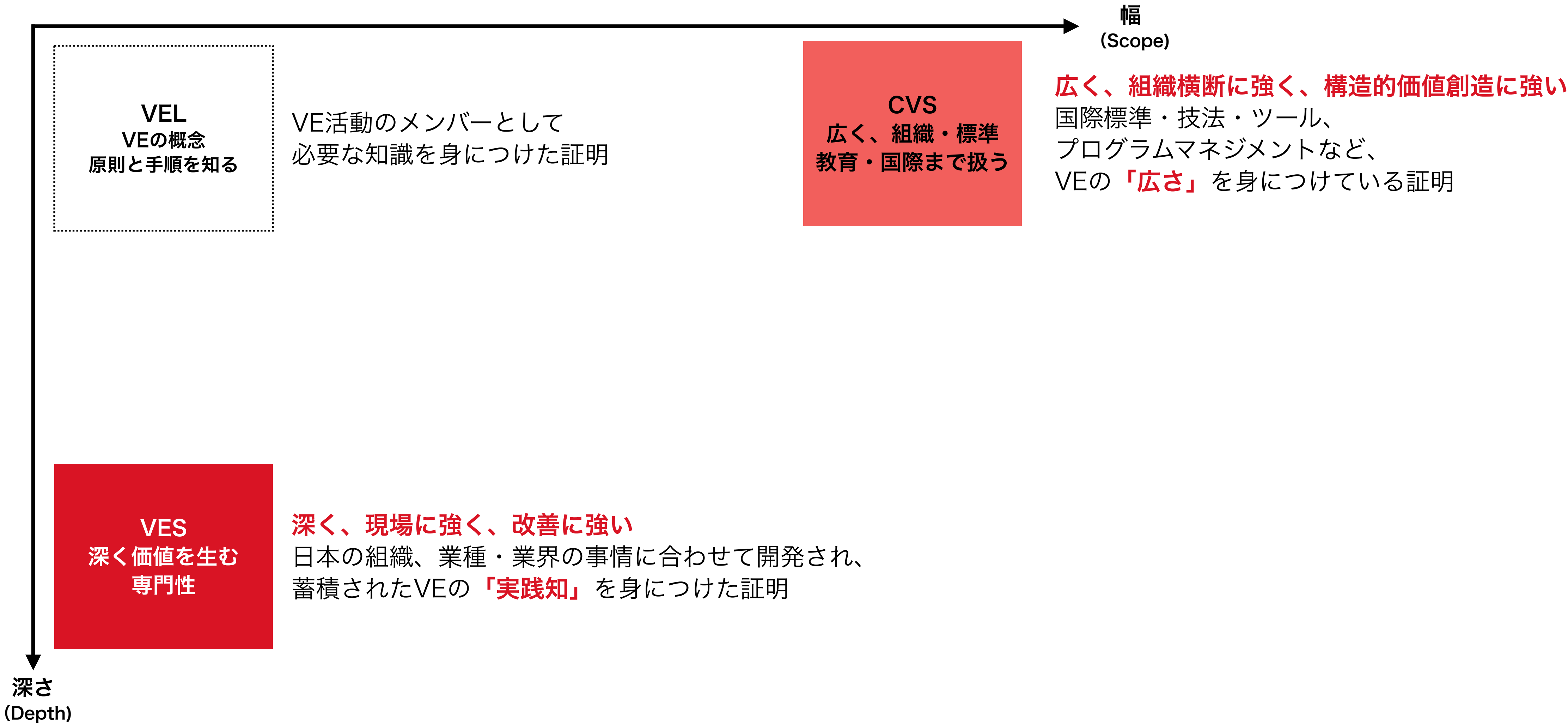
# CVS資格制度の国際標準化

- これまで日本ではCVS資格制度を独自の形式で運用してきたが、国際標準資格として統一される
- 新制度の準備期間として2年間（2025年度・2026年度）を取り、この間は現行制度のままCVS試験を実施



# VE資格の構造

- VESは「深さ」、CVSは「広さ」
- 両者には上下関係はなく、スコープが異なる





# 深さの日本標準 × 幅の国際標準

日本の知識体系＝問題解決の深さ、国際標準体系＝問題解決の広さ

## 日本のVE知識体系 = VEハンドブック

### 主要領域（深さ）

- ・ 製造業・建設業・サービス業・行政
- ・ 製品・設備・工事・業務プロセス
- ・ 機能分析の精度
- ・ 原価・代替案・改善技法
- ・ 現場で成果を出すための実践知

### 特徴

個別領域に深い

現場改善に強い

技術・モノ・工程に強い

日本企業の文化に最適化されている

= 「現場で価値を出すための“深さ”の体系」

## 国際標準体系 = VMGuide

### 主要領域（広さ）

- ・ 企画→設計→実行→運用（ライフサイクル全体）
- ・ 多部門・多職能が関わる価値創造
- ・ 要求定義・価値の構造化
- ・ 組織横断の合意形成
- ・ 意思決定プロセスの透明化
- ・ ファシリテーション

### 特徴

スコープが広い

組織・構造・意思決定に強い

複雑性の高いプロジェクトに対応

= 「価値創造を“構造として扱う”ための幅の体系」

**VDA = 「深さ × 幅」を持つプロフェッショナル**



# VDAカリキュラムの 全体像



# VE講座

高度なVE知識の習得

## 澤 口 学

立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科 教授

東北大学大学院工学研究科 客員教授

日本VE協会参与、CVS-Life

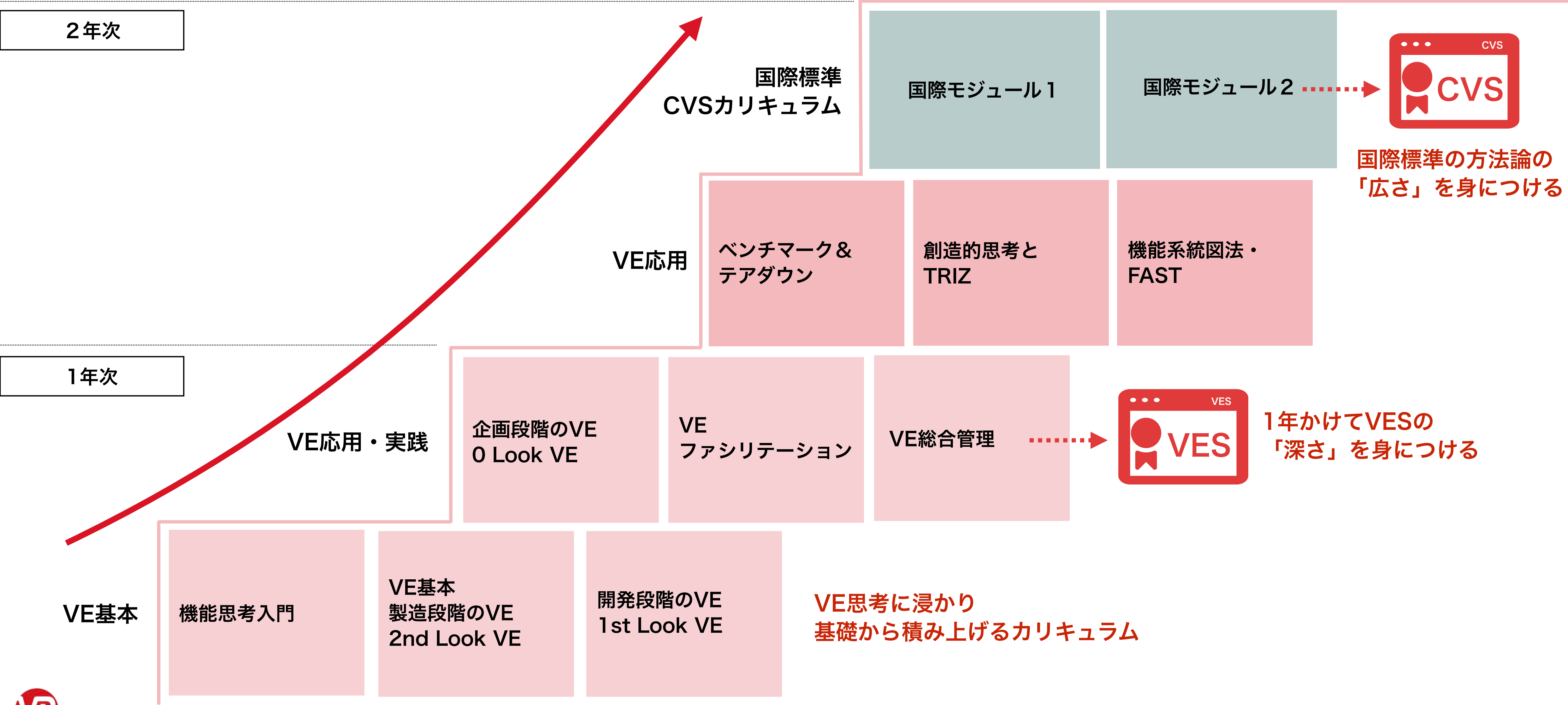
- ・ NPO法人日本TRIZ協会副理事長
- ・ 長年、製造企業のR&D・設計部門を対象に実践的な次世代事業戦略、価値創造設計の方法論を開発。
- ・ 専門はVE、TRIZ、イノベーション・マネジメントなど。
- ・ 著書  
『はじめての企画・開発メソッド ～0Look VE/1st Look VE～』（同友館）  
『不便益の実装 ― バリュー・エンジニアリングにおける新しい価値』（近代科学社Digital）  
『日本式モノづくり工学入門 ～イノベーション創造型VE/TRIZ』（同友館）など。





# VE講座体系（CVS資格制度改定対応）

VEの基本から応用・管理までを体系的・網羅的に学ぶことで、VEプロフェッショナルに成長する





## 伊藤 学

東京ガス株式会社 資材部調達企画グループ  
CVS

- ・ 2004年 ヤマハマリン株式会社資材部  
部品バイヤー（ステンレス鋼材、EG部品など）を担当、リーマンショック発生後、構造改革プロジェクトにアサインされ、人員が大幅に減らされるなか、二桁パーセントのコスト削減目標を達成
- ・ 2012年～16年 Yamaha Motor Asian Center  
タイに赴任。ASEANの開発購買とソーシングを担当し、二桁パーセントのコスト削減の道筋をつける
- ・ 2016年～18年 Yamaha Motor Vietnam  
開発購買グループのMGRとして、コスト改革PJに参加するためベトナムに赴任するも、1週間後にPJ中止。リーマンショックとこのプロジェクトの中止が「時間軸を大切にする」「二度と仲間に同じ思いをさせない」というVER.としてのこだわりの原点となる
- ・ 2018年9月 東京ガス株式会社入社 資材部調達改革PJG  
調達改革、VE活動、取引先改善活動など、領域をまたぐ様々なテーマにVEを適用し、成功に導く
- ・ 2023年～ 独立コンサルタント  
東京ガスで業務をつづける傍ら、業務改善、調達、原価企画など、VEの思考を武器に中小企業を中心に指導に取り組む





## 赤城 弘一

立命館大学OIC総合研究機構 客員教授  
株式会社赤城エンジニアリング代表取締役  
CVS

- ・ 国立九州大学工学部航空工学科卒業
- ・ 石川島重工業株式会社に入社。防衛庁向けの航空エンジンの開発設計に5年間従事  
回転部品の構造設計・構造解析そして要素試験を担当
- ・ その後、三菱重工業株式会社に入社。ガスタービンの開発設計に15年間従事  
同社製造部門に異動し、製造管理職を設計・調達（兼務）に10年間従事
- ・ 日本の工場の生産性の向上と海外工場の立ち上げに従事。（VEの技術導入）
- ・ 同社技術本部にて、全社でのコストダウン設計指導に2年間指導  
その後、製造現場のデジタル化の推進業務に5年間従事し、定年退職
- ・ 現在、立命館大学にて管理技術とAR（拡張現実）そしてAIを用いた作業者の有する属人的な知識の形式知化の研究中。また設計者の有する属人的な知識の形式知化の研究にも取り組んでいる。同時に 日本VE協会の業務および製品改善コンサルタントとして東京ガス株式会社などを指導中





## 内田 佳代

東京科学大学 非常勤講師

株式会社ETERNAL SMILE 取締役

バリューデザインアカデミー メンター

CVS

- ・ 国際資格CVSを持ち、VEによる業務改善・価値創造・コストマネジメントを専門とする
- ・ 現場理解 × VE（構造化）の両面から改善を設計するアプローチに定評がある
- ・ 歯周病専門医での研修後、一般・審美歯科に勤務。保健所、都立病院、一般歯科など多数の医療機関と契約し、VE×QC を活用した業務改善・スタッフ育成・開業支援・経営改善を実施。
- ・ 早稲田大学大学院（経営工学）にて、サービス品質・プロセス設計・改善手法を学び、
- ・ 「現場理解 × VE（構造化）」を統合した独自の改善メソッド を確立
- ・ 現在は医療に限らず、行政機関やサービス企業でもVE導入・業務改善プロジェクトを担当し、改善の専門家として活動領域を広げている
- ・ 東京医科歯科大学歯学部附属歯科衛生士学校卒
- ・ 早稲田大学大学院 創造理工学研究科 修士（経営工学）

+  $\alpha$  講座



## 芝本 秀徳

株式会社プロセスデザインエージェント代表取締役  
CVS

- ・ 大手ITベンダーでソフトウェアエンジニア、プロジェクトマネジャーとして、自動車部品メーカー、エレクトロニクスメーカーのソフトウェア開発に携わる
- ・ その後、文教市場向けソフトウェア開発に市場機会を見出し商品開発に乗り出し、企画・開発・販売まで一貫して現場を陣頭指揮
- ・ 現在はコンサルタントとして、ソフトウェアの世界で培った問題解決力とエンジニアリングの知見を活かし、IT、金融、サービス業、小売業など、さまざまな業種の企業をクライアントとして持ち、戦略策定、実行ファシリテーション、DXプロジェクトPMO、人材開発などを行う





# VEを超えた問題解決力へ——プロフェッショナルのための+α

VEの相乗効果を生み出す+α講座。問題解決のプロフェッショナルと向き合う

コンサルティング能力を 高める	コンサルタントの コンピテンシー	コンサルティング プロジェクトの進め方	
問題解決力を高める	具体と抽象による 問題発見の技術	問いのデザイン	
問題解決の幅を広げる	R言語で学ぶ AI時代の データサイエンス	経営者視点を手に入れる マネジメント アカウンティング	SNS時代の デジタルマーケティング
管理技術を学ぶ	IEのマインドと技術	TQMによる 品質経営の実践	
特別講座	アクセプトされる論文の 設計と執筆プロセス	知の編集し、体系化する技術	





# + α 講師陣——各分野の第一人者が、あなたの問題解決力を引き上げる

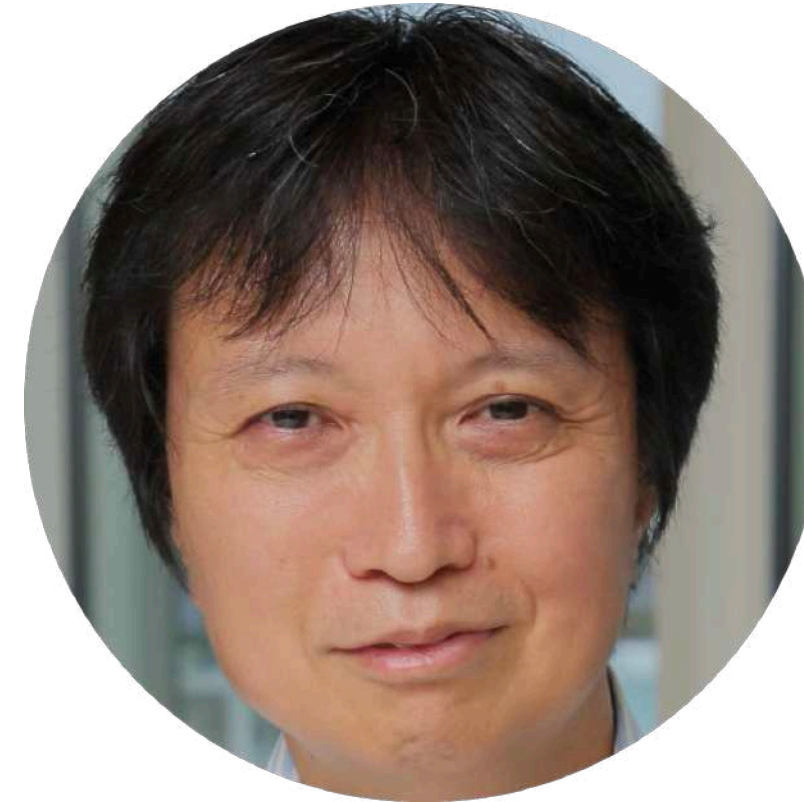
コンピテンシー/PJの進め方



芝本 秀徳

プロセスデザインエージェント  
代表取締役 CVS

具体と抽象による問題発見の技術



細谷 功

著述家、ビジネスコンサルタント  
『地頭力』の先駆者

マネジメントアカウンティング



吉澤 大

吉澤税務会計事務所代表  
ファイナンスの用心棒

AI時代のデータサイエンス



瀬下 大輔

株式会社すうかくぶんか代表  
統計 x ビジネスのプロ

問いのデザイン



塩瀬 隆之

京都大学総合博物館  
准教授

デジタルマーケティング



片岡 亮太

株式会社KATAOKA DESIGN MARKETING  
代表取締役

TQMによる品質経営の実践



金子 雅明

東海大学 情報通信学部  
情報通信学科 教授

IEのマインドと技術



松野 思迪

立正大学経営学部経営学科  
専任講師

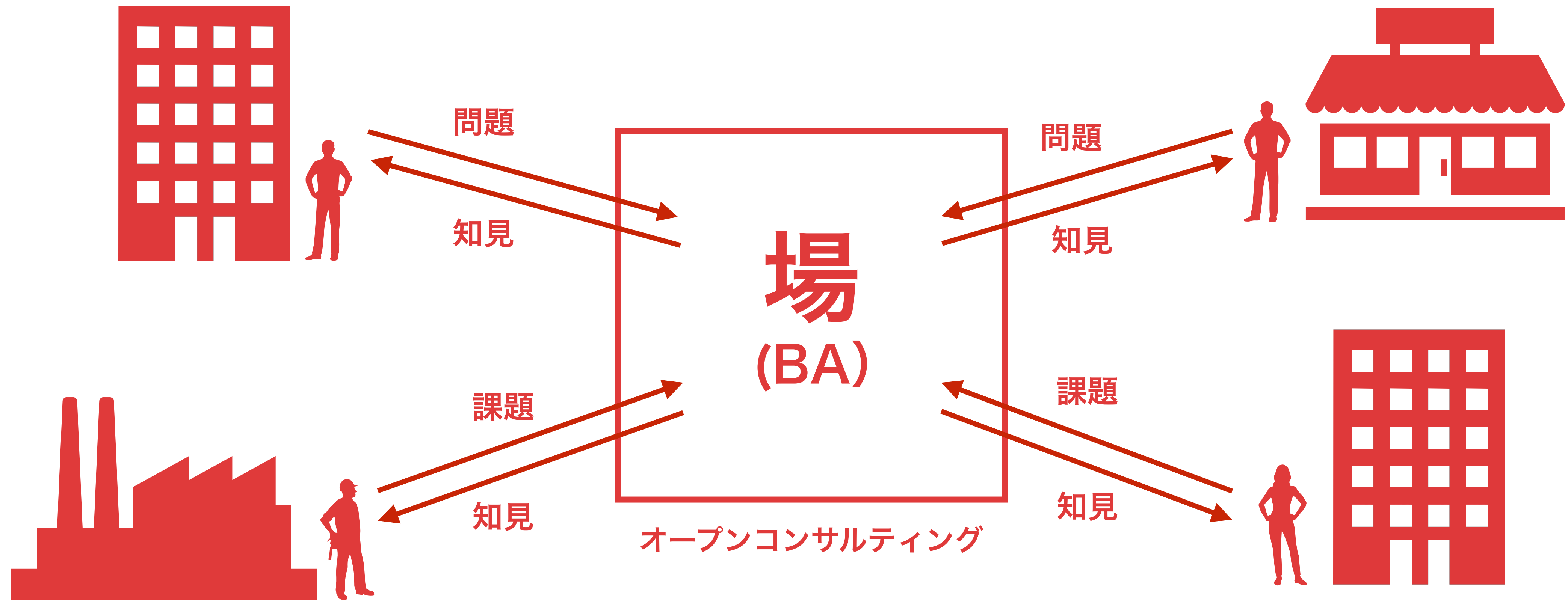




# オープンコンサルティング

# リアルな課題でVE+αを実践する『オープンコンサルティング』

それぞれが現場でもっている問題を持ち寄って議論することにより「問題解決力を高める」場。  
議論を通じて「問いの立て方」「思考プロセス」「ファシリテーション」を看取り稽古する。  
いわば「知のスパークリング」



# 課外活動



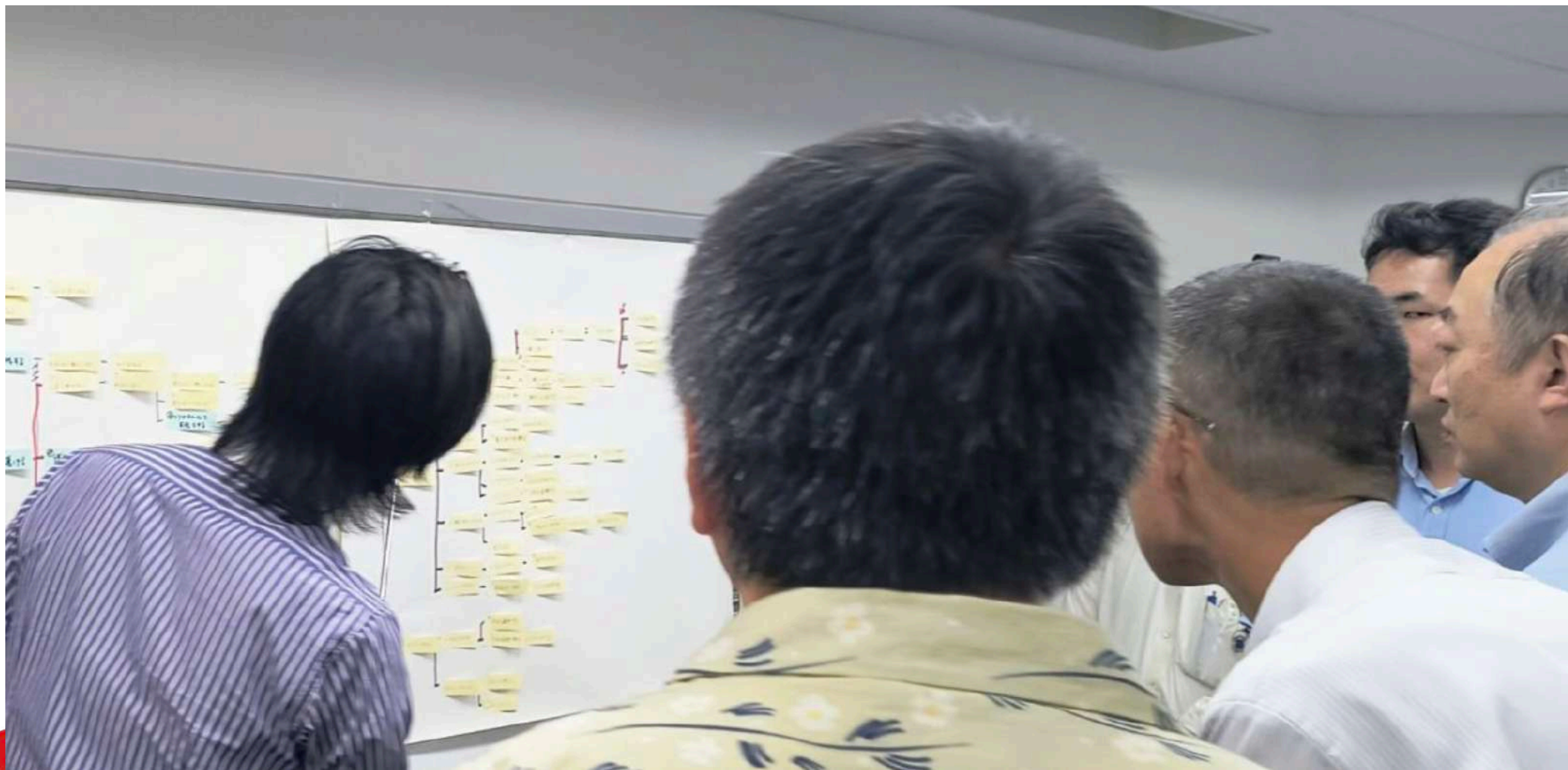
# 機能系統図道場

内田CVSによる熱血指導で、VEの核心である「機能系統図」を徹底トレーニング（計3日間）

鉄山ノート  
機能系統図道場

内田CVS  
(内田鉄山館長)  
特製  
鉄山ノート

2025/07/29 鉄





# 自主活動 WS

## 異分野のメンバーが集まり、VE実施手順とファシリテーションの経験値を高める

エチケットシェーパー VE ワorkshop用ケースブック

第1章 ケース概要

1.1 ケースの目的

本ケースは、VDA 課外活動（自主ワークショップ）において、受講生が小型製品を対象とした VE 活動の一連の流れを体験することを目的としている。

特に、以下の力を養成する：

- 製品の物理構成と機能の関係を正確に捉える力
- 構成要素ごとの機能の重要性、あるべきコスト、価値の程度、コスト
- 機能本位の思考によるアイデアの発想
- 技術・設計の視点を持ったファシリテーション経験

1.2 ケースの対象範囲

対象は、家庭用電動島毛カッター（商品名：エチケットシェーパー）の現行分解写真・構成図に基づき、外装・駆動部・切断部・電解部の全体を対象とする。

1.3 想定する企業背景・課題状況

市場における差別化が顕著化している（機能・価格帯が横並び）顧客ニーズ（安全性・静音性・手入れのしやすさ）に応えきれていないコスト構造に非効率あり（ある部品にコストが偏っている）

1.4 ケース使用上の注意事項

- 分解写真やコスト情報は VE 演習用に再構成された仮想情報を含む
- あくまでファシリテーショントレーニングのための学習材料
- 正解を求めるのではなく、ロジックと多面的な視点（ユーザー視点、製造視点、設計視点、マーケティング視点、環境視点、メンテナンス視点、etc.）を重視
- 対象の製品は現行の市販モデルとは設計年代が異なります。本演習では、当時の製品設計状況を前提に考察する「製造設備の VE (2nd Look VE)」を想定しています。そのため、ネット検索等で現行機種、もしくは他社製品の情報に触れた場合でも、安易に最新の外観や構造を前提にせず、当時の仕様・制約に立ち返って検討するよう留意してください。

ワークショップ用  
ケースブック





# 1 期生の活躍



# 海外大会参加

## SAVE 大会での論文発表





# 海外大会参加

## 香港VE大会での論文発表






# バリューカンファレンスでの論文発表

## 実践論文の入選

### VE手法とモジュラーデザインの融合による電子顕微鏡開発効率化



日本電子 藤本様

VE手法とモジュラーデザインの融合による電子顕微鏡開発効率化

従来設計

モジュラーデザイン

製品

ユニット・部品

治具

製品

モジュール

治具

見る YouTube

日本電子株式会社 藤本直樹

電子顕微鏡の多品種少量生産における設計工数増大とコスト増加の課題に対し、VE手法とモジュラーデザインを融合したアプローチを実践した。機能分析とバラエティ分析により不要なバリエーションを特定・削減し、部門間連携を強化。その結果、設計・組立工数とコストの大幅削減を実現し、開発効率向上の有効性を実証することができた。

(再生時間：26分)



藤本 直樹 氏

日本電子株式会社 EM電気設計部 VES

2011年に日本電子株式会社に入社。以来、透過型電子顕微鏡（TEM）の電気設計に従事し、特に排気系制御および自動搬送系制御を中心に担当。

近年は、設計効率化と標準化を目的にVE手法とモジュラーデザインの融合による開発プロセス改革に取り組んでいる。

### 顧客と組織の視点を用いた機能の分類方法の提案 一定量ポンプの構成部品での検証



TACMINA 高島様

後で見る 共有

見る YouTube

VE実施手順通りに活動することは、導入段階の企業では難しく時間がかかると思われがちである。今回、機能定義段階において、顧客と組織の両方の視点から機能の分類を行うことで、機能評価・代替案作成段階の活動にメリハリをつけ、効率的に進めることができた事例を報告する。(再生時間：23分)



高島 ひかる 氏

株式会社タクミナ 技術本部技術管理室長 VES

1999年、株式会社タクミナに入社。お客様の要求に合わせてカスタマイズする特注製品の設計業務に従事。2007年VEと出会い、社内のVE導入に関わる。現在は技術管理室でVE・テアダウン定着に向けた活動やVEの機能本位思考を技術伝承に活用する仕組み構築を進めている。



2024年度 VES合格 **8**名（うち1名 VEL未取得者含む）

---

2025年度 CVS合格 **5**名（うち4名 2024年度VES取得）



# 実施要綱

# 03

# 実施形態

- ・ VE講座は年次別を実施。ステップを踏んで学ぶことにより「理解を深める」
- ・ +  $\alpha$  講座は2年サイクル、1年次・2年次合同で実施。場を共有することで「仲間を増やす」
- ・ オープンコンサルティングは、1年次・2年次合同で実施。ケースと視点を増やすことで「問題解決力を高める」

VE講座	年次別 (一部、合同開催)
+ $\alpha$ 講座	1年次・2年次合同 (2年サイクル)
オープンコンサルティング	1年次・2年次合同





# 3期生 スケジュール（調整中）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	VE講座		機能思考 入門 5/12		2nd Look VE 7/14	1st Look VE 8/18		VE総合管理 10/2		0 Look VE 12/15		ファシリテ ーション 2/9	
	+α	開講式 /コンピテン シー 4/14		TQM 6/23			問題発見 9/15		アカウンテ ィング 11/10		データ サイエンス 1/19		VES 資格試験 /修了式 3/16
2年次	VE講座		ベンチマー キング・ テアダウン		CTC TRIZ	FAST		1B-1	1B-2	1B-3	2B-1	2B-2	2B-3
	+α	開講式 /コンピテン シー		IE			マーケティ ング		問いの デザイン		コンサル プロジェク ト		卒業式
	OC	4/21	5/26	6/16	7/28	8/25	9/29	10/27	11/24	12/22	1/26	2/25	/



募集人数 **15** 名限定

---

(先着順)





受講料（年） **660,000**円（税込） / 1 名

---



# 受講料（本校生）複数名

---

同一企業からの参加に「複数名割引」を設定

受講料（年） **1,188,000**円（税込） / 2名

---





# オンライン聴講生

---

本校生のお申込みいただいた企業様のみお申し込み可。

全講座（特別講座を除く）の聴講可。講座ごとに異なる方の聴講も可（ただし、お持ちのアカウント数の人数内）

受講料（年） **99,000**円（税込） / 同時視聴 1 名

---

受講料（年） **165,000**円（税込） / 同時視聴 2 名まで

---

受講料（年） **220,000**円（税込） / 同時視聴 3 名～9 名まで

---

受講料（年） **330,000**円（税込） / 同時視聴 1 0 名～3 0 名まで

---

※30名以上は別途ご相談ください



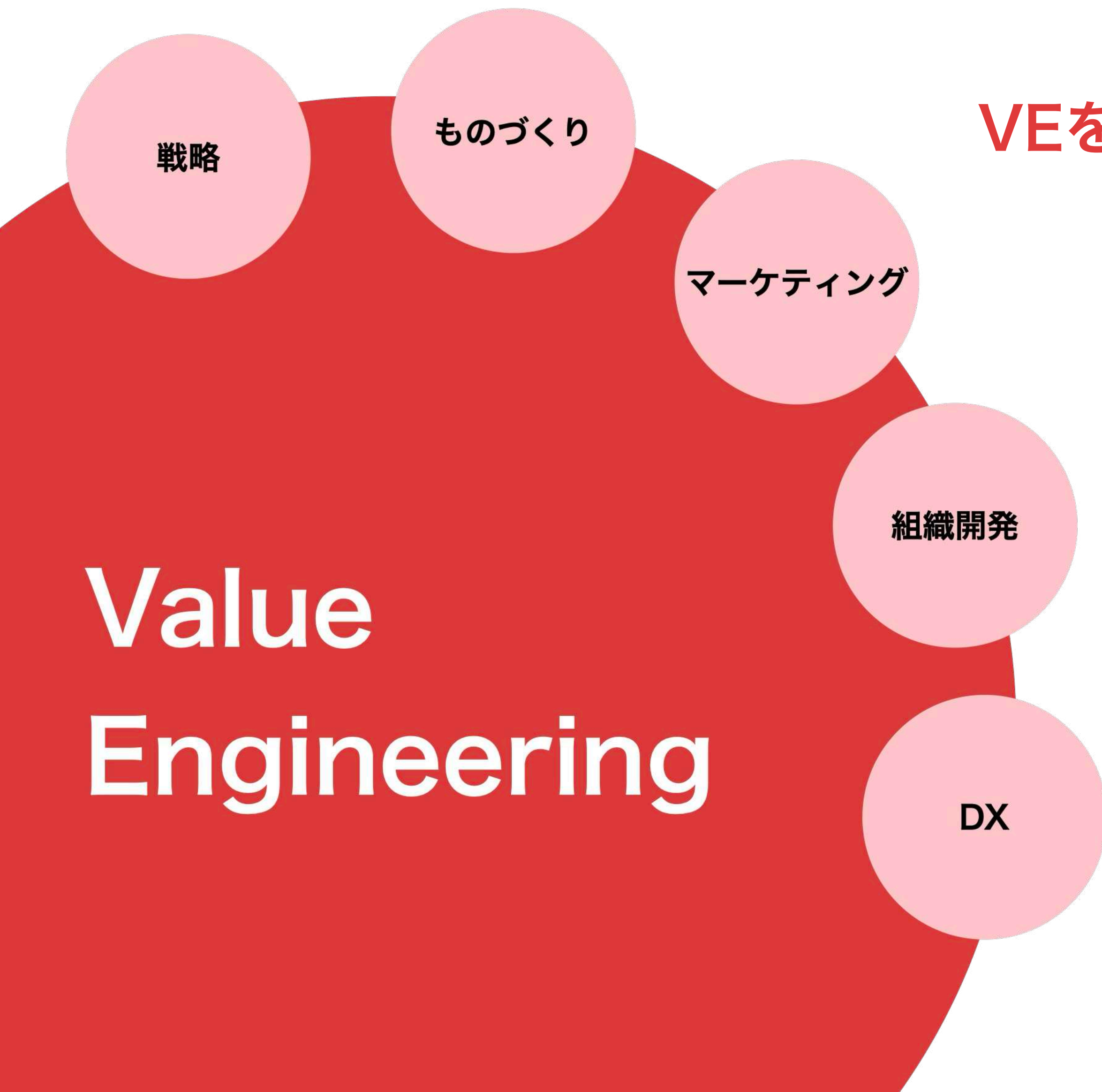
# 参加条件

	本校生	本校生（2年次編入）	オンライン聴講生
VE講座・プラスα講座	○ (現地参加、オンライン参加ともに可)	○ (現地参加、オンライン参加ともに可)	○ (オンライン参加のみ)
オープンコンサルティング	○	○	
特別講座への参加	○	○	
オンデマンド視聴	○	○	○ (VE講座・プラスα講座のみ)
電子テキスト	○	○	○
演習参加	○	○	
質問	○	○	
CVS受験要件認定	○	2年次に受講した時間を充当	





# VDA卒業時に目指す「プロフェッショナル」の姿



## VEを軸足に、あらゆる分野の価値を向上する人材

VEの最大の特徴は、あらゆる分野にその「思考プロセス」を適用し、価値を創造できることにあります。これは他の管理技術にはない特徴です。

この「思考プロセス」は組織や社会にインパクトを与えることのみならず、VEr. 個人の人生にも大きなインパクトを与えます。

人生と社会の価値の総和を最大化する「学びの場」。  
それがバリューデザインアカデミーです。



**Value Design Academy**